



凜として

長江プライド「当たり前のことを当たり前」

令和6年4月11日(木) 第1号(特別号)



支え合おう、つながろう、つなげよう、「相互扶助の精神」で

いよいよ令和6年度がはじまりました。

穏やかな春の風が心地よくそよぐ4月9日(火)に53名の新入生を迎え、全校生徒187名による長江中学校の令和6年度がスタートしました。教職員一同一丸となって、生徒一人一人が安心して生活でき、豊かな学びの実現を目指し、指導・支援をしていきます。今年度で長江中学校は閉校となりますが、この一年が思い出深いものとなるよう保護者の皆様、地域の方々のご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は「五事を正す」「相互扶助の精神」で「三つのWA」の実現を目指し、凜とした「長江プライド」を継承・深化させ、けじめある学校生活の中で、子どもたちが生き生きと活動する、輝く学校となるよう頑張っていますので、この一年どうぞよろしくお願いいたします。注) 相互扶助: お互いに助け合い支え合うこと。互いに助け合う協同精神のこと。

《HP校長あいさつから》

本校は今年度を持って閉校となり、令和7年度4月からは久保中学校区及び長江中学校区の小中6校による尾道市初の中高一貫教育校として、久保中学校と統合し「尾道市立尾道みなと中学校」となります。本年度も昨年度に引き続き、学校教育目標を「凜とした『元氣・感動・温もり』のある生徒の育成」と掲げ、この学校教育目標の達成を目指す中で、最後の一年が有意義なものになるよう取り組んでまいります。

また、3年生は長江中学校の最後の卒業生、1・2年生は新しい学校の1期生・2期生となることから、本校として最後の一年、新しい学校への準備期間の一年として、「小中9年間を見据えた総合的な学習の時間」や「小中、中中の繋がり」「地域との繋がり」などに一層取り組み、それぞれの個性が活かされ団結する中で、新たな文化(価値)のそぞう(「想像」「創造」)に挑戦していきたいと考えています。

★ 令和6年度のキーワード『三つのWA』『相互扶助』

「三つのWA」というのは「人の輪」「心の和」「感動の“わっ”」です。私は、本校の生徒や教職員一人一人が大切な仲間として尊重されることを願っています。その大切な一人一人が手をつなぎ(人の輪)、心を通わせ、全ての仲間の心が一つ(心の和)になった時、心を揺さぶる大きな感動(感動の“わっ”)が生まれると考えています。ただし、結果のみでなく、プロセスが大切であるということはいまでもありません。「輪から和」、「和からわっ」のプロセスの中で「相互扶助の精神」を各々が持ち、最後となる長江中学校の一年を思い出深い、価値あるものにしていきたいと思っています。

《4/8 始業式から》

2, 3年生のみなさん。進級おめでとう。2年生は、長江中学校の真ん中をつなぐ中堅の学年として、3年生は最高学年として、「長江プライド」をもって大いに頑張ってもらいたいと思います。そして、昨年度同様「学びの風土づくり」三原則に取り組み、当たり前のことが当たり前に行えることにプライド(誇り)をもつ長江中学校の生徒であって欲しいと思います。夢と志を抱き、未来へ挑戦していきましょう。

《学校教育目標》

凜とした「元氣・感動・温もり」のある生徒の育成

- (1) 『長江プライド』: 当たり前のことを当たり前
- (2) 『そぞう(想像・創造)』: 未来への挑戦
「探究(最適解を...)」「主体性」「協働性」
- (3) 『三つのWA』
: 一人一人が尊重され、大きな感動を生む集団に
「五事を正す」「相互扶助の精神」

(2) 未来への挑戦「そぞう」

夢(私)と志(公)の両立

→「長江の未来を想像し、

新たな価値を創造していこう」

必要な力「探究力」「主体性」「協働性」

★地域貢献: 長江に愛着と誇りを

(1) 当たり前のことを当たり前

教職員・生徒 学びの風土 長江中学校

時 場 礼

つねに時間を意識して 一歩先を見通した生活をしよう

緊張感のたどよう中 みんなが清々しい気持ちで 活動できる場をつくらう

相手を感動させ心地よくさせる 所作を身につけよう

(3) 感動を生む集団 《三つのWA》

令和6年度 生徒会スローガン 輪

～個性から団結へ つなげる思いやり～

感動のわっ
心の和
人の輪



53名の新入生を迎える



入学式での新入生の大きな声での返事やきちんとした態度、また、新入生を代表しての〇〇〇〇さんの誓いのことばは、とても立派なものでした。意気込みが感じられ、心強く思いました。本校で取り組んでいる「長江プライド」の伝統を立派に引き継ぐとともに、新たな伝統をつなげていってくれるものと確信しました。誰もが気持ちよく過ごせる凜とした学校をとともに創り上げていきましょう。君たちのすべてに大きな期待を寄せています。

- ・「五事を正す」(近江聖人 中江藤樹): 貌(ほう): 和やかな顔つきをし
言(げん): 思いやりのある言葉で話しかけ 視(し): 澄んだ目で物事を見つめ
聴(ちょう): 耳を傾けて人の話を聴き 思(し): 真心を込めて相手のことを思う
- ☆「ひとの寂(さび)しさ佐(わび)しさ、つらさに敏感な事、これが優(やさ)しさであり、また人間として一番優(すぐ)れている事ぢやないかしら」

太宰治(1946年4月30日付け 河盛好蔵あて書簡より)

- ・「人が優しくするのは、優しさが返ってくるからではなく、優しくされた人もみんなに優しくなるからです」
- ・「優しい言葉はたとえ簡単な言葉であってもずっと心にこだまする」(マザー・テレサ)

